

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

梅雨の時季を楽しんでいる。静かにまっすぐに落ちる雨を見ていると心は落ち着く。長崎に暮らしていた幼い頃、小学校の登下校、ゴム長靴の中にはいつも水が溜まっていた。傘は持っていたがささず友達とふざけていたのだろう。雨水が流れる溝をわざと歩いて見せて、びしゃびしゃする感触を楽しんでいた。

日本列島には梅雨は避けられないようだ。秋の収穫に向けて必要な天の恵みでもあるのだ。どうぞ、恵みとなるように降らせてほしい。大雨洪水につながるような天災にならないことを今年も願う。

主催事業報告 6/11(水) 「パンづくり教室」

地元、新宿小学校の前にあるパン屋さん「BUND BAKERY(ブント ベーカリー)」の方をお願いして教えていただきました。「公民館のある地域」、「地域にあるお店」を意識して、初めてパンづくりの講座を開催しました。応募が大変多く競争倍率4倍以上という人気ぶりでした。参加者12人分のパン生地は、お店で前日に練ってくれていたのですが、それは水と強力粉などを混ぜて適温で寝かせるだけでできるということでした。当日はこの生地を正確に測りながらひとつずつ形作って、さらに30分ほど寝かせます。オーブンの温度に気を配りながら20分ほどで焼き上がりました。

参加者の皆さんは初めから和気あいあいとした雰囲気、声を掛け合いながら楽しそうにパンづくりに取り組んでいました。調理器具に対して焼くパンの量を多くしたためか、やや焦げてしまったりくっついたりもしましたが、講師の先生も含め皆さ



【紫陽花も、ぐったり】

令和7年度 第4号
令和7年6月23日(月)
発行 千葉市新宿公民館
住所 中央区新宿2-16-14
電話 043-243-434

んで懸命に取り組んで焼き上げたからでしょうか、次もぜひやってみたいとの声も上がっていました。

アンケートの一部を紹介します。

・とてもとても満足しました。とても楽しく受講させていただきました。初めてのパン作りで不安でしたが詳しく教えていただけたのでぜひ家で作ってみたいと思います。・なかなか講座ではできないような高度なパンを3種類も教えていただき感謝です。初めての講師の先生の頑張りが嬉しいです。講師が丁寧に教えてくださり初めてのパンづくりが楽しくできました。・フォカッチャを作りたいかったので来ました。こねなくてよい作り方だったのでさっそく家でやってみます。・先生もグループの人も親切でよく教えていただいて楽しかったです。また参加したいと思います。

主催事業報告 6/18(水)

「蔦屋重三郎と浮世絵を知る」

NHK 大河ドラマ「べらぼう」が好評のようです。そのような中、千葉市中央区にある千葉市美術館で「江戸の名プロデューサー 蔦屋重三郎と浮世絵のキセキ」が開催されましたので、学芸員の方からの説明会と浮世絵を自由に鑑賞していただく講座を企画しました。その注目度の高さからか、講座の申し込みは100名を超え、急遽募集人員を増やして美術館には対応していただきました。

担当学芸員の方から浮世絵についての歴史やその背景、鑑賞するポイントなどについてのレクチャー直後の鑑賞だったので、いつもとは違う観点から浮世絵を楽しんでもらえたようです。これを機会に、千葉市美術館にも関心を持たれる方が増えることを期待します。

アンケートの一部を紹介します。

・浮世絵の基本的知識や発展した様子をとても分かりやすく説明頂いた。・版元、絵師、摺師、彫師などの役割やそれぞれの時代の特徴が聴けて勉強になった。展示を見るのが楽しみです。レクチャー後に展示を見ることによって、より一層興味深く展示を楽しめることになり、ありがたかったです。・浮世絵を体系的に知ることができて、とても興味を持ちました。ありがとうございました。今までは絵師にしか興味がなかったため、蔦屋重三郎ほかのプロデュー

サーが存在して多くの作品が生まれたことがわかりました。今回の話を聞いてもっと勉強したいと思いました。・大河ドラマを観て面白いと思っていたが、この企画があったから千葉市美術館に初めて来ようと思った。ありがとう。・浮世絵の奥深さを再認識しました。大変意義深い講座でした。

主催事業報告 6/21(土)

「ササッと男のランチ②」

およそひと月前の講座に続く2回目。今回の料理メニューは、「トマトスープパスタ」と「じゃがいもとズッキーニのオムレツ」でした。材料は揃えてありますが、野菜の皮をむいたり、切ったり刻んだり火をつけるタイミングなど、段取りにはやはり戸惑っているようでした。時には講師の先生から、厳しかつ的確な指示を受けながら調理が進められました。ちょっとした隙間時間には、鍋やフライパンなど洗い物を進めておくことも慣れてきたようでした。この日はおまけに冷たいコーヒゼリーも作って皆さんで昼食を楽しんでいました。

調理をすることに、これまでは、特に高齢の男性には、不慣れ、抵抗感などがあったでしょう。調理する方の背景はさまざまです。好きだからやる、楽しいからやる、自分でやらなければいけないからやる…。このような機会に、男性が料理に親しみ、料理を続けるようになったら楽しいですね。もうすでに、そういう時代が変わってきているのでしょうか。男の料理、バンザイ。

移り行くこと（常体で書かせていただきます）

昨日、長崎の同級生 Y 君から電話があった。「久しぶり～。元気にしよるね～」いつもの優しい声だった。同期の U 君は高校教師をつづけていて、永年、公立高校のバスケットボール部を指導してきた。長崎県予選を勝ち抜き、東京で開催される全国大会に、何度も生徒を連れてきていて、そのたびに私は東京体育

館に応援に行ったものだ。初めて進出した時は、1年生主体のチームであつたためか、強豪校に大差で敗れた。その晩、居酒屋での反省会では大いに飲んだ。翌年もその次の年も、勝ち上がった試合の後、そのゲームを振り返る。お茶の水、品川、東京新宿のど真ん中でも、長崎弁でバスケットについて語り合う時間はとても楽しいものだった。全国レベルの試合の経験がない私には、U 君がそれはそれは羨ましく、そして嬉しく、とても誇らしかった。

その U 君が、今年のインターハイ長崎県予選をベスト4で敗れ、顧問を退くことになり、昨晩は同期バスケット部が集まってささやかな苦労様会を開いていたという。「4人しかおらんけん、迎のおらんば5人でバスケットのできんばい」と T 君。「夏は帰ってくる？」と O さん。「11月の同窓会には来れると？ 予定の決まったら連絡して」と Y 君。「部活ばせんごとなったら時間のたっぷりあるよ。孫と遊びよる」と U 君。「第2の人生ばい」とスッキリしたような声だった。

いつまでもバスケットの指導を続けると思っていたので、その姿を見られなくなるのは残念でもあった。でも「よう頑張ったね」としか言えない。その日、宴席にいたほかの3人も、また新たな場所で人生を送っている。遠く 1,200 km離れた長崎からの声は、どれも柔らかく温かかった。「今度帰るけん。また会おうで」

私は今日も、来館者と挨拶を交わして、過ごす。

声に出す日本語

市原市の山間部をドライブしてきました。水田は一面の緑になっていました。これから適度な降雨の恵みをいただき、夏に向けて大きく育てほしいですね。そこで今日の歌、『夏は来ぬ』。少し季節はずれているかもしれませんが、日本の初夏の風景を思い浮かべながら歌ってみてください。

『夏は来ぬ』 佐々木信綱

卯の花のにおう垣根に ほととぎすはや 時鳥 早もきなきて

しのびね 忍音もらす 夏は来ぬ

さみだれのそそぐ山田に さおとめ もすそ 早乙女が裳裾ぬらして

たまなえ 玉苗うる 夏は来ぬ

橘のかおるのきばの ほたる 窓 近く螢とびかい

いさ おこたり諫むる 夏は来ぬ

おうち 棟ちる川辺の宿の かど 門 遠く くい 水鶏声して

夕月すずしき 夏は来ぬ

さつきやみ ほたる 螢とびかい くい 水鶏なき卯の花さきて

さなえ 早苗うえわたす 夏は来ぬ

紫陽花も 見せ場迷いて かき 傾ぐ夏至

～花も日焼けしそうな暑さです

（新宿公民館 館長 迎 浩二）

